

# 人権学習指導案(道徳科)

学習者 附属小学校2年1組 35名

指導者 松下 拓誠

## 主題名 「きめつけ」に気づいたとき

### 1. ねらいと教材

きめつけに気付くために大切なことについて、「あの子」の登場人物の様子や気持ちを考えることや、自分たちのこれまでの生活を振り返り、同じような経験がないか伝え合う活動を通して、身近なきめつけに気づき、なくしていこうとする心情を育てる。

**教材名** あの子 (株)解放出版社 作・絵 ひぐちともこ

**内容項目** C-13 公正、公平、社会正義

(関連する内容項目 友情、信頼)

### 2. 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値【価値観】

社会正義は、人として行うべき道筋を社会に当てはめた考え方である。それを実現するためには、思いやりの心をはぐくむことが基本となる。集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏った物の見方や考え方を避けるよう努めることである。しかし、このような社会正義の実現を妨げるものに人々の差別や偏見がある。人間は自分と異なる感じ方や考え方、多数ではない立場や意見などに対し、偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さを持っていると言われる。第1学年および第2学年においては、発達の特質から自己中心的な考え方をしがちである。そのため、人も自分と同じ感じ方や考え方であると考え、異なる感じ方や考え方を否定する傾向がある。こうした自分の好みや利害によって、ともすると公平さを欠く言動をとる姿も見受けられる。そのため、児童が自分のせいではないことでいやな思いやつらい思いをしてしまうことのおかしさ、誰しもが相手をきめつけて判断してしまうことがあるという偏見に気づき、ともになくしていこうとする集団作りが大切である。

本時においては、「誰か」から聞いた噂話を広めてしまう気持ちを絵本の表情や自分の経験をもとに想像し、自分たちもその場の雰囲気や軽い気持ちで、悪意なく相手をきめつけてしまうことや、反対にきめつけられてしまうことがあるということに気づき、お互いの体験を話す、聞き合う活動を通してきめつけに気づき、なくそうとする公正、公平な心情を育てたい。また、「あの子」はどんな気持ちになっているのかを想像することや、「あの子とはなしてみたらええやん」という言葉から、身近にいる友達の思いを考え、助け合ったりする心情を育てたい。

## (2) 児童の実態【児童観】

本学級の児童は、ペア活動や班活動でも、自分の意見を一生懸命に伝え合おうとする姿や、協力して学習をしていこうとする姿が見られる。また、自分たちで遊びのイベントや価値語の取り組みを進めようとするなど、何事も主体性を持ち、みんなで成長したいという思いを持っている児童が多く見られる。一方で、自分と違う考えが出た時に、「えっ？」「別の考えがあります」「ちがうし」となど、あっていないときめつけたように反応してしまうなど、相手の気持ちや立場で想像をすることが苦手な児童も見られる。さらに、「次の授業はこの持ち物があるんだって」「Aさんは昨日マイコプラズマになったって聞いたよ」「ドッジボールは男子の方が得意だよ」「普通に考えたらそうなるでしょ」など、自分がどこかで聞いてきた本当かどうかわからないことに対して偏った考え方をしたり、個人の大切な情報を正しいときめつけて他の児童に話したりしてしまう姿もあった。

このため、噂をされている「あの子」の気持ちや、噂話をしている「みんな」の気持ちを想像することで、「みんな」は無意識に「あの子」にいやな思いをさせてしまっていることや、誰も「あの子」に理由や原因を確かめていないことを捉え、自分だけで判断する「思いこみ」や「きめつけ」では誰かがつらい思いをしているかもしれないことをおさえない。また、それらは悪意なく、誰もがしてしまうことであるという差別の現実気づき、自身の経験を振り返ることで、自分の感じた「つらさ」に気付けるようにしたい。そして、きめつけに気付いたときに、お互いを大切にする方法は何かを考えることができる学習活動を行っていききたい。

## (3) 教材の特質と活用方法【教材観】

本教材は、真っ白な背景に、同じような表情をした子供の顔が次々に現れ、会話をしながら進んでいく。「あの子といっしょにおらんほうがええで。」という噂話のような一言から、どんどん噂をする子供が増えていく。その後、「それって、ほんまにほんまのほんまやの？」という誰かの一言から、「だれかゆうてたもん」「それはしらんけど、みんないうてん」と続き、「でもな」「もしかしてな」「きいただけやしな」「かんけいないな」と、「あの子」について勝手に想像している状態になる。最後に、「あの子とはなしてみたらええやん」という声に対し、「…ん」という返事とともに「あの子」へ一人の子供が近づいていくような絵で終わる。

噂が流れ始めるきっかけである、「あの子といっしょにおらんほうがええで。」までの部分では、「あの子」に何か噂をされるような理由があるのではないかと考えさせるために活用する。その後、後半部分である、「それって、ほんまにほんまのほんまやの？」以降の話を通して、実際は特に理由はなく噂だけが流れていたことに気付かせ、本人に確かめずに、自分だけで「思いこみ」「きめつけ」という状態になっていることを知らせるために活用する。この「思いこみ」や「きめつけ」は、知らないことや、無関心であると、誰もがしてしまうことであると気づき、差別の現実を見抜くことができるようにしたい。そして最後の、「あの子とはなしてみたらええやん」「…ん」の部分で、「きめつけ」をなくすために大切なことは何だろうかという、公正、公平な心情を育てるために活用する。また、「あの子」の気持ちを想像し、「あの子」に対してできることを考えさせることで、身近にいる友達を思いやり、仲良く過ごそうとする気持ちや、困っている友達を心配したり助け合ったりする心情を育てるために活用したい。

### 3. 本時の学習指導過程

#### 単元指導計画【全2時間】

時	ねらい	主な学習活動	評価
第1時	きめつけの様子について、「あの子とはなしてみたらええやん」という誰かの一言に込められた思いを想像することや、自分の経験をふり返る活動を通して、自分やクラスの中にあるきめつけに気付こうとする心情を育てる。	<p>○「あの子」を読み、「あの子といっしょにおらんほうがええで」と噂をした「みんな」の気持ちと、「あの子」の気持ちを考えることで、「きめつけ」の様子を知る。</p> <p>○「それ、ほんまのほんまなん？」といった「気付いた子」の気持ちや、「あの子とはなしてみたらええやん」という声に「ん…」と返した「みんな」の気持ちを考えることで、自分の目や耳で判断することの大切さに気付く。</p> <p>○自分の生活経験のなかで同じような体験がないかを「もやもや書き」で振り返る。</p>	・ワークシートの記述
第2時 【本時】	「つなぐ」クラスになるために大切なことについて、自分の経験を振り返り話すことや、友達の話を聞くことを通して考え、きめつけや思いこみに気付き、なくそうとする心情を育てる。	<p>○前時で書いた、自分の「きめつけ」のつらさを再確認し、言える人から言えることを出し合い共有する。</p> <p>○どうしてきめつけをしてしまうのかをみんなの体験から考え、自分のきめつけに気付いたときにどうしたらよいのかを考える。</p> <p>○「つなぐ」クラスになるために大切なことを考える。</p>	・発言やふりかえりの記述

第1時 本時案

本時の学習指導過程

本時のねらい	きめつけの様子について、「あの子とはなしてみたらええやん」という誰かの一言に込められた思いを想像することや、自分の経験をふり返る活動を通して、自分やクラスの中にあるきめつけに気付こうとする心情を育てる。
評価の着眼点	「あの子とはなしてみたらええやん」と言った「気付いた子」の思いを想像し、これまでの自分の経験をもとにして考えているか。
具体的な児童の姿	あの時の自分はきめつけをしてしまっていたのかもしれないな。(自分を振り返って) きめつけに気づいて、なくしていきたいな。

時間	児童の活動	指導○および留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て
3分	1. 本時のめあてを確かめる	<p>○「つなぐ」クラスに向けて、考えてほしい話があると伝え、「あの子」の紹介をする。</p> <p>・「あの子」が困っている話であること。どんな立場の人が出てくるか？の2つの視点を持たせてから読み聞かせをする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>めあて</b> 「つなぐ」クラスを目指すために大切なことを考えよう  <b>【本時】「あの子」を通して自分のことをふり返ろう</b></p> </div>		
12分	2. 絵本「あの子」の読み聞かせを聞き、噂話のはじまりや広がっていく様子を考える。	<p>○被差別の立場「あの子」、加差別の立場の「みんな」、差別に気付いた立場「気付いた子」の3者の心情や思いに注目してあらすじを確かめる。</p> <p>・話をしている人数がどんどん増えている＝噂が広がっていることをおさえる。</p> <p>・「おしえて？」や「きいた？」という言葉から、「みんな」が興味本位で話を広げたり、聞こうとしたりする姿に気付かせる。</p> <p>・「みんな」が「ほんまのほんまなん？」と、「気付いた子」に聞かれたときに「だれかいってん」としか言えず、噂の根拠がなかったことに注目させ、「あの子」が噂されている理由ははっきりとわからないことに気付かせる。</p> <p>・「気付いた子」が現れてから、「みんな」が少しずつ変わったことに気付かせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>基本発問</b> 理由もないのに、「あの子といっしょにおらんほうがええで」と言ったのは、どうしてかな？</p> </div>		

5分	3.「思い込み」「きめつけ」の様子を知る。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿(発言)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろそうだから、つい話してしまった。</li> <li>・じょうだんのつもりだった。</li> <li>・みんなが言っていたからいいかなと思った。</li> <li>・どこかで聞いて、そうなのかなと思ったから。</li> </ul> </div> <p>○「みんな」の「ようしらんしな」や「かんけいなしな」という言葉から、悪気なく「あの子」を傷つけてしまっていることをおさえ、「思いこみ」や「きめつけ」がどんなものであるかに気付かせる。</p> <p>・3者の関係から、「あの子」のことを「みんな」はよく知らないこと(なかよしなのか?)をおさえ、よく知らないことも「思いこみ」や「きめつけ」を生んでしまうことを気付かせる。</p> <p>※絵本のページを板書に掲示し、「うわさが広がる様子」「言葉」に注目させ、場面の様子や言葉をおさえやすくする。</p>
15分	4.自分の経験をもとに場면을想像し、考えをワークシートに書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>中心発問</b></p> <p>「それって、ほんまのほんまにほんまなん？」と言ったのはどうしてかな？</p> </div> <p>○ペア、全体で考えを出し合い、思いを共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿(発言)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当のことかわからないのに、勝手に話しているのがおかしいと思ったから。</li> <li>・「あの子」はどんな気持ちなのか考えたら、心配になったから。</li> <li>・このまま話をしていたら、「あの子」がかなしむと思ったから。</li> <li>・いじめみたいになっていると思ったから。</li> </ul> </div> <p>・「気付いた子」の「あの子と話してみたらええやん」という言葉の思いを考えることや、「みんな」が「もしかしてな」「ちがうかもな」と想像だけで話していても、もやもやは解決できない様子から、「自分の目や耳で直接たしかめる」ことの大切さを感じさせる。</p> <p>・気付かなかっただらどうなるのかを考えさせることで、「気付く子」のように、「おかしさに気付く」ことが大切であること、それに気付かなければ「あの子」は悲しいまま(思いこみやきめつけは気付かないうちにしていること)であることを確かめる。</p>

10分	<p>5.教師の実際の経験を聞き、自分の生活を振り返り、「もやもや書き」をする。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>補助発問</b>          どうして「みんな」の話を信じてしまったのかな？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんな」の話をなぜ信じてしまったのかを考え、すききらいやなかのよさだけで判断することや、悪いと思わずに伝えてしまうことも、「思いこみ」や「きめつけ」となっていることに気付かせる。</li> <li>・「みんな」が言っているから本当のように感じてしまう。＝差別に気付きにくいこと、だれもがしてしまう、されてしまうかもしれないことを確かめることから、自分を振り返ることが大切であることを知らせる。</li> </ul> <p>※理解が難しいときは、「男女の色」や「次の時間の持ち物を勝手知らせてしまう」話をして、無意識に持っている「思いこみ」のイメージを持ちやすくする。</p> <p>○「もやもや書き」に自分の経験を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思い込み」「きめつけ」が誰にでも起こることや、どんなものがあるのかをつかむために教師が経験を話し、イメージしやすくする。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 友達に認めてもらえず悲しかった話(被差別体験)</li> <li>② 自分が思いこみをしてしまい、困っている友達に声をかけられなかった話(加差別体験)</li> </ol> <p>※めあての「つなぐクラス」に向けて振り返るという視点を持たせることで、「学校での経験」に絞って考えられるようにする。</p>
-----	--	--

第2時 本時案【本時】

本時のねらい	「つなぐ」クラスになるために大切なことについて、自分の経験を振り返り話すことや友達の話聞くことから考えることを通して、きめつけや思いこみに気付き、なくそうとする心情を育てる。
評価の着眼点	自分や友達の「つらさ」を話すこと、聞くことを通して、自分の思いを振り返り、友達の思いに共感することができる。
具体的な児童の姿	誰かから聞いたことではなく、相手の話を聞いてから考えるようにしたい。 「つなぐ」に向かうための自分の思いを話し、自分の経験を振り返りながら友達の話聞くことができる。

時間	児童の活動	指導○および留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て
3	3. 本時のめあてを確かめる	<p>○前時の教材である、「あの子」のあらすじをたしかめる。</p> <p>・「あの子」「噂をしたみんな」「きめつけに気付いた子」の気持ちと、「思いこみ」「きめつけ」の様子をふり返る。</p> <p>※あらすじから想像が難しいときは、教師の体験したことを語る。</p> <p>・きめつけてしまった話</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>めあて</b></p> <p>「つなぐ」クラスになるために大切なことを考えよう</p> </div>		
5	4. より成長できるクラスにするための視点をもつ	<p>○「つなぐ」クラスになるために、「あの子」で学習した「思い込み」や「きめつけ」に気付き、なくしていくためには、自分たちの体験や思いを振り返ることが大切であることを確かめる。</p> <p>・「あの子」「みんな」「気付いた子」の気持ちからきめつけの様子を確かめる。</p> <p>・相手のことを知るためには、自分の目で、耳で直接確かめることが大切であることをおさえる。</p> <p>※「あの子」の絵本の一部を掲示し、絵の人物の表情や様子を手がかりにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>基本発問</b></p> <p>自分もきめつけをしてしまったことはあるかな？</p> </div>		

10	3.自分が書いた「もやもや書き」の思いにかえす。	<p>○言える人から、言えることから自身の感じた「つらさ」の経験を伝え合う。          ・「つなぐ」クラスになるために大切なことを見つけるという視点で、きめつけてしまった経験をふり返るようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿(発言)】</b></p> <p>(加差別体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊んでいるときに、友達がルール違反をしているときめつけて注意をしたら、勘違いだった。</li> <li>・ボールを持って帰る人を勝手にきめつけて、おしつけてしまった。</li> <li>・人からきいた話を本当だときめつけて、他の友達に知らせてしまった。</li> </ul> <p>(被差別体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことをきめつけて友達に話された。(〇〇さんが好きだって)</li> <li>・ボールが当たったときに、「男のほうがドッジは得意だから」と言われたことがある。</li> </ul> </div>
15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>中心発問 どうしてきめつけをしてしまうのかな？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>補助発問 きめつけに気付くためにはどうしたらいいかな？</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿(発言)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考えなかったから(気付かなかった)</li> <li>・なかのよい友達の話を信じてしまったから。</li> <li>・直接たしかめず、他の人に話してしまったから。</li> <li>・相手のことをよく知らないから。</li> </ul> </div> <p>・そのつもりがなくてもきめつけてしまうことから自分の弱さや、知ることの大切さに気付き、「気づいたとき」にどうしたらいいか？という視点を持たせ、「気付いた子」のように勇気を持って「おかしい」と言えたり、「ごめんね」と言えたりすることの価値付けをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>【想定される児童の姿(発言)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目や耳で直接確かめてから考える。</li> <li>・友達のことをよく見る(ひょうじょう、あいさつの声 に注目する)</li> <li>・すぐ言うのではなく、相手のことを考えてから話をする。</li> </ul> </div>

12	4.本時の振り返りをする。	<p>○きめつけに気付いたときに大切なことはなにかという視点で振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>【想定される児童の姿(発言・記述)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手をよく知らないときめつけてしまうので、みんなのことをもっと知ること。(よく見る)</li> <li>・誰かから聞いたことではなく、相手の話を聞いてから考えるようにしたい。</li> <li>・困っている友達に、「どうしたの」と声をかけること。</li> <li>・すききらいだけではんだんしないこと。</li> <li>・聞いたことをすぐに知らせてしまうのではなく、よく考えてから話すこと。</li> <li>・自分のことをふり返って、きめつけてしまったかどうか考えること。</li> <li>・きめつけに気付いたら、ゆうきを出して謝ること。</li> <li>・「おかしいよ」といって止めること。</li> </ul> </div> <p>※大切なことが思いつかない児童には、本時で考えたことや感じたことでもよいことを伝える。</p>
----	---------------	---

㊦ 「つなぐ」クラスのために大切なことを考えよう

うわさのはじまり

広がる様子

気付いた子

なやむみんな

あの子と話してみたらええやん

出てきた人 あの子 みんな 気付く人

きめつけ 思いこみ

気づく

自分をふりかえる

自分の目と耳で  
ちよくせつ  
たしかめる

みんなの「もやもや書き」

(しちゃったほう)

- ・友達の好きな人を勝手に話してしまった。
- ・〇〇さんが掃除をしていないときめつけて友達にいつてしまった。
- ・〇〇な人はだれ？とみんなで指をさしてきめつけてしまった。

(されたほう)

- ・していないことで注意された。

○どうしてきめつけてしまうのかな？

- ・友達の話を信じてしまうから。
- ・相手の気持ちを考えていないから。  
→みんなしてしまうことがある  
→気づかないとしてしまう。
- ・したくないけど、わからないから。  
→あいてのことをよく知らないから。
- ・じぶんのことをゆうせんしているから。

○きめつけに気づいたらどうしたらいい？

- ・正直にあやまる。→ゆうきがいる。
- ・「おかしいよ」と伝える。(あいてに)
- ・みかたになれるようにする。
- ・いやだと思っていたことをやめる。

○気づくために大切なこと

- ・友達のことをよく見る→ひょうじょう
- ・相手がどう思うのか考える。
- ・ちよくせく話してはんだんする。
- ・だいじょうぶ？と声をかける。
- ・友だちのことををよく知る

㊦ 「つなぐ」クラスのために大切なこと

- ・友達のひょうじょうを見て考える。
- ・これを言ったら相手はどんな気持ちになるかな？を考えて話す。
- ・ゆうきを出してあやまる。
- ・自分をふりかえって考える。

基本発問

きめつけてしまったことはあるかな？

中心発問

どうしてきめつけてしまうのかな？

補助発問

きめつけに気付くために大切なことは？